

入選

「お母さん、いつもありがとう」

兵庫県 愛徳学園小学校 六年

義野 えいか

一九五〇個。この数は、お母さんが私に作ってくれたお弁当の数です。私が通った幼稚園も、今通っている小学校も給食がありません。だからお母さんは、私のために九年間、お弁当を作ってくれています。夏休み、冬休み、春休みと、土曜日、日曜日、祭日を書いて、運動会や遠足の時のお弁当を足すと、だいたい今までに一九五〇個ぐらい作ってくれたことになりました。お母さんのお弁当は、私が大きくなるための必需品です。何故かというところ、お弁当は、私だけのためにお母さんが、作ってくるものだからです。幼稚園の頃から思い出してみると、はじめは、小さな赤いお弁当箱に、動物の顔のピックが刺さったプチトマトや、かにやたこの形ウインナーや、キャラクターの絵がついているかまぼことかが色とりどりに入っていて、いつも開けるのが楽しみでした。そんな可愛いお弁当は、小学校四年生くらいまで続きました。

私が五年生になると、食べる量も多くなってきたので、お弁当箱もすこし大きくなりました。たこさんウインナーは、めつたに顔を出さなくなると、その代わりに、食材の種類が増えて、見た目よりも量と質が変わっていききました。お母さんのお弁当は、今まで同じパターンのものは、一度もありません。いつもなにか一工夫してあって、今でも、お弁当を広げる時、ワクワクします。お母さんは、スーパーマーケットに買い物に行く時、「お弁当に入れる食材を買いに行ってるようなものね。」と、よく言います。

お母さんは、毎朝5時に起きて、料理をしてくれるのです。私が、お母さんの作ってくれるおかずで大好きなのは、山芋のてんぷらです。食べる時、中がシャキシャキしていて、とても美味しいです。海老ピラフも大好きです。お母さんは「海老に一工夫しているのよ」と言います。ネギや細かく切ったハムがいっぱい入った出し巻き玉子も、とても美味しいです。わたしの体の事をいつも考えて、毎朝早く起きてお弁当を作ってくれるお母さんに、ありがとうと言いたいのですが、いつも朝は眠いし、登校前で私も、お母さんもばたばたしているから、なかなか言えません。それに、なんだか改まって言うのが照れくさいのです。私は立つ派な大人になって、お母さんに恩返しをしようと思っています。お母さん、それまで待っていてね。

お母さん、いつもありがとう。